

ウナギ



区分	環境省レッドリスト:絶滅危惧 I B 類
分布	日本全国に分布するが、新潟県、宮城県以北には少ない。 ⁽¹⁾
生態	河川の中・下流域や河口域、湖にいるが、時には川の上流域、内湾などにも生息する。繁殖期は 4～12 月で、河川への遡上は 10～6 月である。日中は石垣・土手の穴、底の泥の中などにひそみ、夜間は摂餌活動を開始する。 ⁽¹⁾
配慮事項	河川の中・下流域や河口域、湖にいるが、時には川の上流域、内湾などにも生息する。繁殖期は 4～12 月で、河川への遡上は 10～6 月である。日中は石垣・土手の穴、底の泥の中などにひそみ、夜間は摂餌活動を開始する。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

アユ



分布	北海道西部以南の日本各地に分布する。 ⁽¹⁾
生態	仔魚は海に降った当初は沿岸域に広く分布し、昼は底層に、夜間は表層に生息する。春になり遡上期が近づくと岸寄りに分布する。河川に遡上したアユは、中流から上流域の大石や岩盤にある瀬に縄張りを形成して定着する。縄張りは平瀬や早瀬および淵の一部に形成する。夏を過ぎて涼風が立つ頃になるとしだいに生殖巣が成熟し、川を降り始める。成熟した雌雄は彼岸頃から11月下旬にかけて産卵場に集合し、中流域最下部の流速の早い砂利底の浅瀬に多数群がって産卵する。 ⁽¹⁾
配慮事項	一生の間に海と河川の中流から上流域とを往復するため、堰などの河川を横断する工作物には適切な魚道が必要である。遡上できる障害物の高さは20～40cm位が限度とされている。アユの生息には早瀬、平瀬、淵が必要である。淵の埋立や石礫の除去は、生息場所の消失に繋がる。成魚には縄張りを作る平瀬が必要であるが、単にブルドーザーでならした人工の瀬では単純すぎる。採餌・休息場所となるような、石の配置をする必要がある。産卵から孵化期、遡上期の土砂流出には十分に注意をする必要がある。産卵場所となる中流から下流域の浮石の多い瀬で、河川工事を行う場合、細心の注意が必要である。アユの餌となる藻類繁茂には新鮮な藻が付着できる基盤を露出させるために定期的な出水が必要である。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

オイカワ



分布	北陸・関東地方以西の本州、四国の瀬戸内側、九州の河川中・下流域、および湖沼に広く分布する。 ⁽¹⁾
生態	成魚は浅く、開けた場所に多い。Bb 型より下流の平瀬から淵にかけて多い。産卵期は 5 月下旬であり、水深 5～10cm 程度の流れの緩い平瀬に産卵する。 ⁽¹⁾
配慮事項	河川改修により、流路を直線化し、川幅を広げ、水深を浅くすると、生息に適している。河川改修後に本種が増えたという事例もある。 ⁽¹⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

カワアナゴ



区分	宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	茨城県以南の本州太平洋側、四国、九州、屋久島に分布する。 ⁽¹⁾
生態	河川の汽水域から下流域にかけて生息し、砂底や礫底を好む。昼間は岩陰などに潜み、夜に底生の小動物や小魚を捕食する。産卵生態は不明。カワアナゴの仲間では、チチブモドキ、オカメハゼも確認されている。
配慮事項	河川改修による河床の悪化、横断工作物(井堰など)による回遊の阻害に対する配慮が必要である。 ⁽²⁾

(1) 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚、川那部浩哉・水野信彦、1989

(2) 宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物、宮崎県、2000

カマキリ



区分	環境省レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類 宮崎県版レッドリスト: 準絶滅危惧
分布	日本の固有種で、神奈川県。秋田両県以南の本州、四国、九州に分布し、本州の日本海側に多い。 (1)
生態	川の中流域を中心に生息し、特に瀬の礫底を好む。産卵期は1～3月で、海の沿岸近くで産卵する。孵化した仔魚は沿岸で浮遊生活後、全長13～16mmの稚魚に成長して川をのぼる。
配慮事項	河川内の人工構造物設置(井堰など)による生活史の遮断に対する配慮が必要である。 ⁽²⁾

(1) 川の生物図典、財団法人 リバーフロント整備センター、1996

(2) 宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物、宮崎県、2000